沿岸部

地域の話題・情報お寄せください

八戸支社 0178(43)1010
洋野支局 0194(69)1060
久慈支局 0194(53)3030
宮古支局 0193(62)1771
釜石支局 0193(23)5107
大船渡、陸前高田合同支局 0192(27)3070

B級グルメ 復興に力

県内の3団体 きょう久慈で販売

全国のB級ご当地グルメが集まるB－1グランプリへの出場資格を持つ、北上コロッケ暖簾（のれん）会（北上市）、いわてまち焼きうどん連合歓隊（岩手町）、久慈まめぶ部屋（久慈市山形町）の3団体は23日、久慈市中町のやませ土風館で、復興に向けて3団体が力を合わせて取り組んでいくとの共同声明を発表した。元気な岩手を食を通じてアピールする強力タッグの活躍が期待される。

3団体は、これまでの活動や震災以降に被災地で行った炊き出しについて報告。今後、出場が見込まれるB－1グランプリに向けた意気込みを述べた。

同暖簾会の岡島親吾事務局長（42）と同連合歓隊の菊地真一郎隊長（58）、同部屋の小笠原巨樹（きよき）部屋頭（33）が「3団体が協力して、古里岩手を元気づけ、復興の道を歩みながら、食を通じて明るい未来をつくっていこう」と共同で誓った。

24日は午前10時から、やませ土風館周辺で開かれるB級ご当地グルメまつり、久慈市長内町の舟渡海水浴場で行われる久慈みなと福興祭で、それぞれのご当地グルメを販売する。

食を通じて岩手を元気づけようと誓い合う（左から）菊地真一郎隊長、岡島親吾事務局長、小笠原巨樹部屋頭

被災逃れた車両に笑顔

大船渡・三鉄吉浜駅で応援企画

吉浜駅に停車している三陸鉄道「奇跡の車両」でおにぎりを頬張る子どもたち

「三鉄応援企画　吉浜ピクニックに行こう！」（三陸まるごと体験館主催）は23日、大船渡市三陸町吉浜で開かれた。震災発生時、走行中だったもののトンネル内で被災を免れ、現在吉浜駅に停車中の「奇跡の車両」を会場に利用。震災後初のイベントを企画した三陸まるごと体験館の熊谷満恵館長は「当面鉄道は走らないが、今後もイベントを企画していきたい」と意気込む。

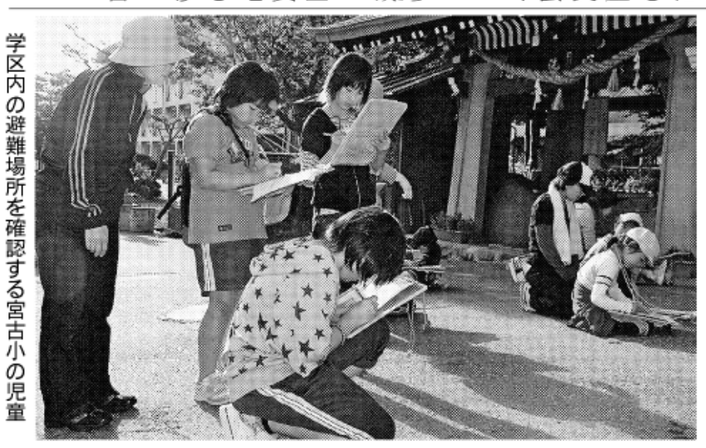
親子が昼食や記念撮影

親子連れなど18人が参加。同市三陸町吉浜のブルーベリー園で摘み取り体験した後吉浜駅に移動した。

「奇跡の車両」は、6月24日に移動するまで同市と釜石市にまたがる三陸鉄道南リアス線鍬台トンネル内に停車していた。子どもたちはわれ先にと座席に陣取り、熊谷館長や三陸町三鉄友の会の会員が振る舞う熱々の「三鉄汁」を味わった。

電車が大好きという大船渡市赤崎町の後城靖雄（やすお）君（猪川小1年）は「早く走らないかな」と少し残念そう。母真佐美さん（30）は「自宅近くを走るのをいつも見ていた」と感慨深げだった。

昼食後は制服を着て運転席で記念撮影も。同市三陸町越喜来の同館は津波で全壊。活動の再スタートに熊谷館長は「急な企画だったがたくさん集まってくれた」と安堵の表情。「今度はお年寄り向けの企画や、車両基地でのイベントを考えている」と意欲を高めていた。



学区内の避難場所を確認する宮古小の児童

避難場所確認「わかった」

親子でウオークラリー　宮古小

宮古市横町の宮古小（相模貞一校長、児童250人）は23日、「歩け歩け運動　学区内ハザードウオークラリー」を行い、120人の親子が学区内の避難場所を確認した。

地震、津波から児童の安全を守ろうと同校PTAが初めて企画。市総合防災ハザードマップを参考に避難場所となる高台、水が氾濫する恐れのある小川など11カ所をチェックポイントにした。

同校を起点に、親子で制限時間1時間で歩いた。各チェックポイントでは「お寺に公衆電話は何台あるか」「神社の鳥居の絵を描いてみよう」など簡単な質問が出され、親子で防災意識を高めた。

山本来海（くるみ）さん（5年）、佐々木愛梨（えり）さん（同）と一緒に参加した吉田鼓（つづみ）さん（同）は「津波が来たら今日歩いた高い場所に逃げるようにしたい」と誓った。

PTA会長の平井亮吉さん（38）は「親子が同じ視点で歩くことが大切。津波を見ていない子も、今回の津波の経験を引き継いでほしい」と話した。

近藤欽司前監督（右奥）の指導を受ける陸前高田市の子どもたち

国内トップの技学ぶ

陸前高田卓球フェス　前女子監督が指導

「復興祈念　卓球フェスティバル」（陸前高田市卓球協会など主催）は23、24の両日、陸前高田市内で開かれ、卓球日本女子の近藤欽司前監督らが子どもたちを指導している。

23日は同市米崎町の復興米崎卓球会館で、近藤前監督と日本オリンピック委員会の強化育成プログラム「エリートアカデミー」の中高生6人が、米崎小、米崎中の子どもたちとラリーを繰り広げた。

近藤前監督は「楽しく元気よく卓球をしてほしい」と呼び掛けた。

米崎中1年の菅原沙知（さち）さんは「エリートアカデミーの選手の球は回転がかかっており、自分たちと全然違う。良い経験になる」と練習に励んでいた。

24日は米崎小体育館を会場に指導を行う。

陸前高田の現状記す

戸羽市長　来月8日に出版

陸前高田市の戸羽太市長著「被災地の本当の話をしよう―陸前高田市長が綴るあの日とこれから」（ワニブックス刊）は8月8日、出版される。

津波で中心市街地が壊滅した東日本大震災当日の状況をはじめ、復旧と復興へ向けた陣頭指揮に立つ日々の様子、佐藤正久参院議員との対談などを収録する。

戸羽市長は「被災地に関する報道は徐々に減っている。頑張っている部分や困っている部分を発信したい」としている。

同書はワニブックス【PLUS】新書として出版される。176ページ、798円（税込み）。

戸羽太市長著の「被災地の本当の話をしよう」

海風受けビーチサッカー　洋野

砂の上で懸命にボールを追う選手たち

ひろのビーチサッカーフェスティバル2011（同実行委主催）は23、24の両日、洋野町種市の種市海浜公園で開かれ、県内外の延べ88チームが砂浜で熱戦を繰り広げている。23日は女性や中学生以下を交えたフレンドリーズリーグを行い、予選リーグと決勝トーナメントで競った。

選手は爽やかな海風を受けながら懸命にプレー。女性だけのチームも参加し、観客から大きな声援を受けた。

久慈東高2年の宇部星彩（せあ）さん（16）は「砂で足元が悪くて難しいが、いい体力づくりになる。みんなで守って1点を決めたい」と張り切っていた。

大会は9年目。24日は中学生以上の男女を対象にしたチャンピオンズリーグが行われる。募金や参加料の一部を寄付する。

カンフーや野球楽しむ

住田で教室

市来崎大祐さん（左）の指導でカンフーを体験する子どもたち

スポーツ選手のマネジメントなどを手掛けるスポーツカンパニー（東京都、岡泰秀社長）は23日、住田町でスポーツ教室を開いた。

同町と陸前高田市の野球スポーツ少年団3チームの約40人が参加した。昨秋の広州アジア大会銀メダリストの武術太極拳選手、市来崎大祐（しらさきだいすけ）さんはカンフーを指導。子どもたちは市来崎さんの鋭い技に驚いたように見入り、実際に掛け声を出して突きなどを体験した。

そのほか、プロ野球の近鉄、楽天で活躍した川口憲史さんがバッティングなどを指導。スポーツカンパニーの社員が子どもに体の使い方を教えた。

岡社長は「5月に被災地を訪れた時にスポーツで元気をもらいたいという声が多く『何とかしなければ』という気持ちだった。自分たちが行くことで被災地の方が元気になれば」と話していた。

24日は宮古市でラグビー教室を開く。

町から村から

▼久慈市▽園庭開放　25日10～11時30・小久慈保育園。

休日当番医　24日

◇気仙地区▽山浦医院（大船渡市盛町字内ノ目26・3121）▽歯科一菊池歯科クリニック（大船渡市大船渡町字山馬越26・2108）
◇釜石市▽濱登医院（中妻町55・4126）
◇久慈市▽ちだ医院（門前61・3366）
【休日当番薬局】
◇釜石市▽リリーフ薬局（中妻町25・0711）
◇久慈市▽ハーモニー薬局（門前61・3305）
▽サンケア薬局県立久慈病院前店（旭町61・1888）

慶弔

※お悔やみ欄のカッコ内は世帯主または喪主です。（敬称略）

宮古市（22、23日）
お悔やみ　元田トシ（87）日立浜町（秀武）
石田修（74）小国22の76の3（武彦）

久慈市（23日）
お悔やみ　平谷雅宏（47）長内町11の21の5（久美子）

八戸市（23日）
お悔やみ　秋山ヒデ（83）新井田字風渡16の2
矢代英子（72）江陽2の15の28
中村達夫（65）長苗代1の3の43
真下ハル（96）白銀町字久保下18の4
松橋ちよ（95）尻内町字大仏44

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。